



第39回 平成28年7月1日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂3-3-25

バスハイク



水上バスの船上にて

初めての水上バスは広々とした大きな船でした。お台場から日の出橋を経由して浅草まで行きました。日差しが強いくらい天候に恵まれました。キレイな青空の下で見晴らしのいい船内から景色を楽しみ、潮風を感じながら船に揺られていました。隅田川テラスで散歩する親子と手を振り合い、微笑ましい光景でした。船酔いなど体調不良もなく乗船することができました。

センターに入職して十年経ちました

二階西病棟 看護長 戸田 澄代

平成十八年四月に入職してから十年以上が過ぎました。子どもが好きで東部療育センターに入職しましたが、重症心身障害児(者)に関わる事が以前勤めていた病院の小児科で数人しか接する経験がありませんでした。

今まで聞いた事がない病名の利用者が多い中で、自分なりにどんな病気が調べたりしていたことを懐かしく思い出します。しゃべれない人と思慮疎通をとれるようにするにはどうしたら良いか?利用者の特性を踏まえたケ



ご家族と共に成人を祝う
<成人式にて>

最初はなかなか利用者にも受け入れてもらえない所もあり苦労したこともありました。利用者としていく中で段々とちょっとした顔色や表情、身体全体での表現、脈拍、酸素飽和度などから色々な事が分かるようになってきました。利用者の方々も少しずつ私の事を受け入れてくださるようになり、笑顔や穏やかな表情をみせてくれるようになってきました。それは私にとっても励みとなり、また喜びにもなりました。

乳幼児通所運動会



イカ大王に扮する職員
梅雨の晴れ間の六月十九日、十名の乳幼児のお友達と大勢のご家族の皆様が参加し、ほれほれの運動会が開

催されました。今年のテーマは「海」ということで、かわいいクラゲに変身し、タコさんチーム、イカさんチームに分かれて頑張りました。障害物競走ではお絵かきやジグザク道など、タコ女王とイカ大王にお届け物をしました。他にもダンスや綱引きなど、みんなで力を合わせて楽しむことができました。

移動水族館



(写真上) 帯魚コーナーで熱心な説明を聞いている様子
(写真右) ベッドサイドで水槽の魚鑑賞!



四月二十三日(土)、今年も移動水族館に来て頂きました。展示用トラックには綺麗な魚の熱帯魚コーナーとアナゴのいる近海魚コーナーがありました。触れあいコーナーではナマコやヒトデに触れることができました。また病棟のベッドサイドには小さな水槽を持ち込み触れることもできました。魚の表面が一瞬黒から青色に変化した時「おー」という感嘆の声が聞かれました。移動水族館職員の皆様のトークに磨きがかかり、とても楽しいひと時を過ごす事ができました。しばらく病棟の中が興奮の余韻に包まれていました。

入学を祝う会



入学を祝う会にて記念撮影
~ 校長先生や職員に囲まれて ~

四月八日に都立墨東特別支援学校かもめ分教室「入学を祝う会」が行

われました。今年度は中学部に二名の男子生徒が入学しました。小学部・高等部の入学生がいらない中、注目度の高さに二人はちょっとドキドキした様子でしたが、ご家族をはじめ、たくさんの方々に囲まれ、晴れやかな門出の一日となりました。そんな二人も今はすっかり中学部生活になれ、「青春時代の入口」の日々を楽しみ、充実させていきます。

通所延長療育



延長療育の様子

今年の延長療育は六名程度のメンバーに分かれ、五月に三回、十月に三回行われます。帰りのバスが出る十五時三十分までは通常通りですが、みんなを見送った後は三時間半の延長療育の始まりです。今年度のゲーム大会ではボウリングを行いました。病棟の利用者様の参加もあり、交流をしながら、優勝商品の優勝ベルトを巡り、白熱したゲーム大会になりました。盛り上がったゲーム大会の後は映画の上映会。のんびりと映画を観ながら食事を食べる方や整容タイム。残ったメンバーでも交流を深めながら普段より遅い夜の時間を仲間たちと一緒に楽しみました。次回は十月に実施予定です。十月もおたのしみに。



利用者さんと魚を鑑賞中
<移動水族館にて>
(左から戸田看護長と利用者さん)

◇これらに向けて
この利用者達に関する事で、大変な障害があるけれども利用者らしさを見出していけるように、色々な職種の方々と利用者の為に来る事を考えていける事を幸せに感じています。
私も今年で還暦を向かえる事となり、看護師人生も残り少なくなってきましたが、この重症心身障害児(者)に関わる事が出来るとても良かったと思っています。

(写真左)
クリスマス会の一場面



(写真左)
オータムフェスティバル作品
「はらへこあおむし」の
チヨウチヨになりました

看護の日イベント



盛況だった「看護の日」イベント (スナモにて)

五月十日、南砂町シヨックセンター・スナモにおいて「看護の日健康チェック

協会認定看護師ならびに勤続十年表彰

六月八日に、日本重症心身障害福祉協会認定看護師に認定された谷山明子看護師と近藤ひろみ看護師の認定証授与式と永年勤続者三十四名の表彰式を行いました。



加我院長(中央)と認定看護師の谷山看護師(左)と近藤看護師(右)

ク」のイベントを開催しました。

当日は準備段階から多くの方々に興味を持っていただき、開催直前には行列ができるほどの盛況となりました。健康チェックの内容としては、体重測定、体脂肪測定、血圧測定、皮膚保湿度測定、肺活量測定を行い、開催時間中四十人以上の参加がありました。これから看護師の仕事について知ってもらおうと共に、当セン



勤続十年表彰 加我院長(前列中央)と表彰対象者の皆さん

ターがより地域に根差した施設として発展していくよう、今後とも活動を継続したいと思えます。

プール活動



人工呼吸器装着の方のプール活動の様子

東部療育センターにおいては長期入所者の約三割の方が人工呼吸器を装着しています。今年度も人工呼吸器の方のプールが始まりました。月間予定表に基づき、五月から翌年二月まで一名ずつプールを利用する計画です。利用の際には、医師、理学療法士、支援科職員、看護師が協力し合って実施します。利用者の方は水の浮力を利用しての心地良い揺れで、手足をゆっくりと伸ばすことができます。

日本重症心身障害福祉協会 全国施設協議会

五月十九日、二十日の二日間、大阪市の大阪国際交流センターにおいて全国施設協議会が開催されました。本協議会は、公益社団法人日本重症心身障害福祉協会が主催し、毎年、重症児者の医療・福祉の向上を図ることを目的に各施設の直面する課題に対する研究成果の発表や将来の方向について協議が行われています。今年も全国の重症児者施設より約四百名が参加しました。

厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部障害福祉専門官による「障害児支援について」の行政説明

また、四月十四日以降の熊本地震を踏まえ、「災害とどう向き合うか」をテーマに、被災した「くまもと江津湖療育医療センター」から状況報告と、過去の被災した施設から当時の状況と取組み内容

の報告を併せ、今後の課題が提起されました。二日目は、「これから

第五十三回 重症心身障害児(者)を守る全国大会



大会の様子 (青森県青森市にて)

六月十八・十九日の二日間、第五十三回重症心身障害児(者)を守る全国大会が青森市で開催されました。第一日目は、厚生労働省障害福祉課長による行政説明があり、その後は四つの分科会に別れ、施設入所と在宅の親を代表した方の意見発表が行われました。その後六項目の要望書の内容を確認し閉会となりました。大会参加中利用者の方々の顔を思い浮かべながら、安全で安心して過ごせる環境を整えていきたいと考える機会となりました。(三階南病棟 看護長 浅野 京)

学会報告

第十四回 国際小児神経学会議に出席して



学会会場にて (写真左: 加我院長) <オランダ アムステルダム>

五月一日から五日までオランダアムステルダムで「世界に橋を架ける1グループバルな視野から見た小児神経学」というスローガンのもと四年に一回の大きな学会が行われました。東部療育センターから鈴木敏洋先生と私が出席し、「成人ダウン症候群のてんかん」と、「Landau-Kleffner症候群の長期予後」について、それぞれ発表を行いました。(院長 加我 牧子)

学会報告

第五十八回 日本小児神経学会学術集會に出席して

六月三日から五日まで東京新宿の京王プラザホテルにて日本小児神経学会学術集會が開催されました。子どもたちの未来のために小児神経と多領域との懸け橋を主題としスポーツや音楽療法などにも焦点を置いたセッションが数多く企画されました。中でも「重症心身障害児(者)と小児神経: 十年後を見据えての視点」と題するシン

ポジウムが開催され、医療・福祉・倫理の視点から障害者総合支援法施行後の動向や今後の問題点が報告されました。(医局長 荒井康裕)



学会ポスター

学会報告

第一一九回 日本小児科学会学術集會に参加して

五月十三日と十五日に札幌医科大学堤裕幸教授のもと、ロイトン札幌とホテルさっぽろ芸文館の二つの会場で開催されました。今回のテーマは「輝け未来へ、子どもたちの懸け橋になろう!」で会頭講演、招待講演二題、特別講演五題、共育講演二十一題、モーニング実践講座六題、国際シンポジウム二題、分野別

シンポジウム十五題、総合シンポジウム九題、特別企画三題と小児科領域と関連領域を含めた広範囲の最新の成果を網羅したもので、一般口演五二七題、ポスター演題七六三題と数多く、盛会でした。(医長 太田秀広)



東部あれこれ

四月から六月の話です。



桜の開花とともに新規職員を迎え、新しい体制で新年度がスタートしました。今年度は開設十二年目にあたり、新・中長期計画の下でセンターの向上に取り組みでまいります。



【五月】

今年新調されたセンターの鯉のぼりが、爽やかな五月の空を泳ぎました。病棟、通所では、グループ外出、バスハイイク、遠足などの行事も始まりました。今年も新しい体験や楽しい思い出を作っていきたいと思えます。今年も人材育成事業として、医師、理学療法士、言語聴覚士、歯科衛生士など専門職を目指す学生の実習受入れが始まりました。将来、センターに来てくれることを期待しています。



【六月】

病棟、通所では、引き続きバスハイイクや運動会などの行事が行われました。また今月は、梅雨のうっとうしさを忘れさせる爽やかな催しがありました。二十二日にボランティアによるアコーディオン演奏が披露されたほか、三十日には、かもめ分教室主催の十周年記念「芸術鑑賞会」が行われ、チェロとピアノによる本格的なコンサートも聴かせてくれました。

編集後記

梅雨時の通勤の道すがら紫陽花が目を引きました。軒先でそっと寄り添って咲く姿が美しい。薄い青から紫へと変色していく日本原産の花です。仕事で疲れたときには、中庭の紫陽花をご覧になってはどうでしょうか。もう少しで、梅雨も明け、暑い夏がやってきます。体調を整え、暑さに負けないように暑い夏を乗り越えましょう。

草方わたいぞのりからこのまは

